

2年 道徳実践事例

1. 教科等	道徳
2. 学年	第2学年
3. 主題	『手紙』～親愛なる子供たちへ～ ティークエンタテイメント
4. 目標	<ul style="list-style-type: none"> ○親の無償の愛の存在を知り、自分がいかに親たちに支えられているものであるかという自覚を持たせる。 ○曲『手紙』を聴き、親や家族への感謝、思いやりの気持ちを持てるよう感じさせる。 ○親と子の絆を感じ、親への思いやりや優しさの大切さを感じさせる。
5. 学習指導要領との関連（指導事項や内容）	道徳学習指導要領 内容 ○4－（6） 父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。
6. 重視した言語活動	<ul style="list-style-type: none"> ○発問に対して、じっくりと考えた上で発言させ、道徳的な見方や考え方を養う。 ○授業の始めと終わりで生徒一人一人の親や家族に対する意識の変化を確認する。

7. 指導にあたって

本時の授業で取り上げる『手紙』は読み物資料『一冊のノート』を使って学習した後、さらにその価値を深めるための授業として位置付けた。また、9月に『認知症サポーター養成講座』を総合的な学習の時間を活用して受講しているため、2年生の生徒には認知症やその介護がどんなものであるかはある程度は理解でき、「介護」について深く考えることができる良い機会となった。本時この『手紙』の中のメッセージは認知症になった親が子どもに向けたメッセージである。子どもに向けたメッセージを知ること、親や家族はいずれ老いていき、誰かに助けを求めるときが来る。中学生の時期は、自我意識が強くなり、自分の判断や意思で、行動しようとする意欲が高まってくる。さらに、家族からのちょっとした忠告や叱責が、自分の存在を否定されたように思えて、反抗したり、親への感謝の気持ちを忘れがちになったりする。少子化や核家族化などが進んだことにより、家族の形態も多様になってきており、家族とは何かが分かりにくい現状でもある。そんな時に親から受けた愛情を思い出し、進んで家族のために行動できるような心を育てたい。親の深い愛の存在を知り、自分がいかに親たちに支えられているものであるかという自覚をもたせ、進んで親のために行動できるような実践力を育てることが大切である。また、自分はいろんな人のお世話になったおかげで今元気に生きているのだということを実感させていきたい。

8. 学習指導計画（全2時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点
I	1	・『一冊のノート』 （出典 中学生の道徳2 自分を考える 暁教育図書）	○父母、祖父母に敬愛の念を深め、お互いを思いやりながら家庭生活を送ろうとする態度を養う。 ○父母や祖父母が育ててくれたから今の自分があるということを理解する。 ○家族と積極的に関わっていかうとする態度を養う。
II	2	・『手紙』～親愛なる子供たちへ～ テイチクエンタテイメント 歌 樋口了一	○親から受けた愛情を思い出し、進んで家族のために行動できるような心を育てる。 ○進んで家族のために行動できるような実践力と心を育てる。

9. 本時の展開（2 / 2）

●言語活動充実のポイント

学習活動	指導上の留意点
<p>・これまで親や家族が自分に注いでくれた深い愛情に気付かせることによって、親と子の絆を感じ、家族への思いやりや優しさの大切さを感じさせる。</p> <p>【導入】</p> <p>1. 前時『一冊のノート』にあった、祖母が書いたインクのにじんだノートのことを振り返り、おばあちゃんの気持ちについて考える。</p> <p>【展開】</p> <p>・前回の『一冊のノート』にあった、祖母が書いたインクのにじんだノートのことを思い出してほしい。おばあちゃんは何を書きたかったのだろうか。</p> <p>【予想される生徒の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今は字も書けなくなつてつらい。 ・もうこの先の人生は長くない、もっと生きて家族と一緒にいたい。 ・まだまだ孫の面倒も見てやりたいのに、思うようにいかない。 ・この先、自分はどうなっていくのだろう。 	<p>○前時『一冊のノート』で登場した祖母のことを振り返る。</p> <p>祖母→・記憶が弱っており、物忘れがひどい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節はずれの服装で買い物に行く。 ・いつも孫に文句を言われていた。 <p>○『一冊のノート』のおばあちゃんの日記の部分をゆっくりと読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各生徒に、そのときのおばあちゃんの気持ちを考えさせる。 ●認知症になった老人の辛い気持ちについても考えさせる。 <p>○インクのにじんだノートの絵を黒板に掲示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●あまり時間をかけさせず、自分の思ったことを発表させる。

[展開]

2. 自分たちが幼なかった頃のことについて考える。

【発問2】

・幼かったとき、自分一人ではできないことがあったはずですが。家族に何をしてももらいましたか。

【予想される生徒の発言】

- ・物を食べるときにこぼす。
→ 食べさせてもらう。
- ・おしっこを漏らす。
→ おむつを変えてもらう。
- ・歩くとよろめく。
→ 手を握って一緒に歩いてもらう。
- ・靴をきちんとはけない。
→ 靴をきちんとはかせてもらう。
- ・お風呂を嫌がる。
→ 一緒にお風呂に入ってくれた。

3. 曲『手紙』を聴く。

・今皆さんに質問したことを音楽を通して考えてみよう。今から聴く曲は『手紙』という曲です。

【発問】

・これは誰からの手紙だろうか。ここに書いてあることは、みんなが幼かったときにしてもらったことも書いてあります。みなさんはこの曲を聴いて感じたことを言ってください。

【予想される生徒の発言】

- ・悲しい
- ・さみしい
- ・思いやり
- ・もっといっしょにいたい

●考える時間を設ける。

●数人の生徒に発表させ、黒板に板書していく。

●他の生徒の意見をしっかりと聞き取らせる。

○自分たちは親からの愛情を受けながら育ったのだということを確認する。

●生徒たち自身も幼い時に必ず経験したことであるので、じっくり考えさせる。

○この発問は、すでに自分たちが幼いころに付き添って助けてもらっていたのだと気付かせる発問である。赤ちゃんのときは家族の介助なしでは何もすることができない。また、今までは他人に対して介助するだけであったが、自分も介助されていたことを思い出すことで、家族に大切に育てられたことに気付かせる重要な発問でもある。

○本時の教材である『手紙』の歌詞を封筒に入れて配る。(ただし、曲を流すまでは、封筒の中は見ない。)

○その後、曲を流す。生徒たちは封筒の中の手紙を出して読む。

●全員に紙を配布し、感じたことを紙に書く。

●数人の生徒に思ったことを聞いていく。

○大きい模造紙を用意し、黒板に掲示する。

全員が書いた紙を模造紙に貼りつけていく。

発表していない生徒の意見を読み上げる。

●この時点で、前時『一冊のノート』とのつながりに気づき、生徒たちの気持ち深まる。

<p>【中心発問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ みなさんは年老いて亡くなっていく人生の終わりには何があってほしいですか。考えてください。 	
<p>【予想される生徒の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族からの深い愛情 ・ 何事も受け止めるやさしさ ・ 思いやり ・ 最後まで寄り添ってくれる人 ・ 大切にされることのうれしさ ・ 生まれてきてよかったと思えること ・ 人生の最後を息子や孫に見守ってほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 『手紙』の歌詞（終わりから6～5行目）の言葉に注目させる。 ○ 生徒たちに考える時間を設ける。（すでに老人を介護することに対してプラスイメージをもっていると予想されるのでしっかりと考えさせる。） ● 生徒たち一人一人に発表させて、思っていることを共有させる。 ● 自分が家族のためにできることは何かをじっくり考えさせる。 ● 時間があれば、老人への介護についても、どう思うか生徒数人の意見を出させる。
<p>4. 感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートを配る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ワークシートを配り本時の感想を書かせる。

10. 評価

- ・ 家族は支えられ、支えていく存在であるということを確認することができたか。

板書例

手紙

おばあちゃんが書いたノート

『一冊のノート』
おばあちゃんのノートの絵

自分が赤ちゃんだったとき

- ・ 食べるときにこぼす。 ↓ 食べさせてもらう。
- ・ おしっこを漏らす。 ↓ おむつを替えてもらう。
- ・ 歩くとよろめく。 ↓ 手を握って一緒に歩いてもらう。
- ・ 靴をきちんとはけない。 ↓ 靴をきちんとはかせてもらう。
- ・ お風呂を嫌がる。 ↓ 一緒にお風呂に入ってくれた。

模造紙

人生の終わりには何があつてほしいか。

- ・ 家族からの深い愛情。
- ・ 何事も受け止める優しさ。
- ・ 思いやり。
- ・ 最後まで寄り添ってくれる人。
- ・ 大切にされることのおれしさ。
- ・ 生まれてきてよかったと思えること。

『手紙』の歌詞

手紙 ～親愛なる子供たちへ～

著作権法により保護されているため、表示できません。

【資料】

道徳学習指導案

1 日時 平成24年〇月〇日 第1限(8:50-9:40)

2 場所 2年1組教室

3 資料名 「一冊のノート」 (出典 中学生の道徳2 自分を考える 暁教育図書)

4 資料観

本資料は、祖母と同居する中学生の「ぼく」が主人公の話である。主人公は、老いが進む祖母を心配しつつも、その言動にいら立ちを感じたり、どうにもならないもどかしさを感じたりし、祖母への接し方について思い悩む。そんな中、主人公は祖母の書いた一冊のノートを見つけたことをきっかけに、祖母の苦しみや自分が受けてきた深い愛情に気付く。

主人公が、祖母との関わりに思い悩みながらも祖母への理解を深めていった姿を通じて、家族は深い愛情によって結ばれていることに気付き、互いに支え合って生活していこうとすることの大切さを考えることができる資料である。

5 学習指導要領との関連

道徳学習指導要領 内容

4-⑥ 父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。

6 生徒感

本学年の生徒は何事にも積極的で、日頃の委員会活動、係活動、清掃活動など、責任をもってこなすことができる。授業も落ち着いた状態で受けており、学校での活動全般で積極的に取り組むことができる学級である。気分にもうらみのあるところも見られるが、授業に対して、意欲的であり、真面目に取り組むことができる。また日々の生活の中で自分は家族に愛情をもって育てられてきたと感じている生徒も多い。そのため、多くの生徒が父母だけでなく祖父母も、自分の成長にとって欠かせない大事な家族であると感じている。そのような生徒に、自分は家族の深い愛情を受けて育ててきたことを改めて感じ取らせるとともに、家族はかけがえのない存在であることに気付き、互いに支え合って生活していこうとする心を育てていきたい。

7 主題設定の理由

年老いて身体や記憶力、判断力が衰えてきた祖母を疎ましく思う主人公の気持ちに共感させながらもこれまで祖母が自分に注いでくれた無私の愛情に気付かせることを通して、家族のために尽くそうとする態度を養う。

8 本時の目標

- ・ 父母、祖父母に敬愛の念を深め、お互いを思いやりながら家庭生活を送ろうとする態度を養う。
- ・ 自分の成長を願い、愛情をもって育ててくれた父母や祖父母があるから、今の自分があることを理解する。
- ・ 家族が注いでくれる愛情についてあらためて考えようとする。
- ・ 家族と積極的に関わっていこうとする態度を養う。

9 本時の指導過程

	生徒の学習内容	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	家族がいてよかったと思うときはどんなときか考える。	・ いつもおいしいご飯を作ってくれる。 ・ 誕生日やクリスマスにプレゼントをもらった。 ・ いろんなところに連れて行ってもらった。	* 本時の学習に関連させ、家族がいつも自分たちのために注いでくれる愛情について考え、発表させる。

展開	<p>資料を範読する。</p> <p>【発問】 学校帰りに薬局の前で祖母に出会った時、知らん顔をして通りすぎた時の主人公の気持ちを考えてみよう。</p> <p>【発問】 おばあちゃんが書いたノートのインクがにじんだ部分を考える。そこにはどんなことを書こうとしていたのだろうか。</p> <p>【中心発問】 だまって祖母と並んで草を取る主人公は心の中でどんなことを考えていたのだろうか。主人公の気持ちについても考えよう。</p> <p>【発問】 「おばあちゃん、きれいになったね。」という主人公の言葉から、何がきれいになったのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・静かに聞く。 ・恥ずかしい。 ・自分の祖母だと知られたくない。 ・自分の祖母だと知られたら友達にからかわれる。 ・昔はこんな祖母ではなかったのに。 ・そんな変な格好をしてほしくない。 ・今は字も書けなくなつてつらい。 ・もうこの先は長くない。もっと生きて家族と一緒にいたい。 ・この先自分はどうなっていくのだろうか。 ・とてもこの先が不安だ。 ・ひどいことをたくさん言ってごめんね。 ・今まで育ててくれてありがとう。 ・おばあちゃんの思いに気付かずごめんなさい。 ・これからはいっぱい優しくするからね。 ・これからは色々助けてあげたい。 ・主人公の心 ・おばあちゃんに対する主人公の気持ち ・庭 ・おばあちゃんと主人公の仲 	<ul style="list-style-type: none"> *感情を込めながら範読する。 *子ども達から意見を聞くと同時に、これは許せないなど思う部分でもあるということを確認させる。 *次回の授業『手紙』でこの発問をする予定なので、時間をあまりかけず触れておく。 ★祖母が草取りをしている絵を掲示する。 *祖母のノートを読んで、祖母の思いを知った時の主人公の気持ちを感じ取らせてから、発問する。 *子ども達の思いをできるだけたくさん板書する。 *時間をかけて、意見を聞く。
終末	ワークシートを配る。	・ワークシートを書く。	*家族は支えられ、支えていく存在であるということを確認させて、生徒達の素直な気持ちを書かせる。

10 評価

父母、祖父母に敬愛の念を深め、お互いを思いやりながら家庭生活を送ろうとする気持ちを深めることができたか。

11 注意事項

「一冊のノート」の本文中（P126）に主人公の「ぼく」の父親が「おまえたちが言うように、おばあちゃんの記憶は相当弱くなっている。しかし、お医者さんの話では、残念ながら現在の医学では治すことはできないんだそうだ。」とある。本資料が編まれた当時以降の医学の進歩について、授業の中で伝えておく。